

第83回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：令和元年9月27日（金） 09：30－11：00

2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

葛西委員長、松井委員長代理、青木委員、折木委員、後藤委員、中須賀委員、松本委員

(2) 政府側

和泉内閣総理大臣補佐官

内閣府宇宙開発戦略推進事務局

松尾事務局長、行松審議官、鈴木参事官、滝澤参事官、中里参事官、星野参事官、森参事官、吉田参事官

内閣官房内閣衛星情報センター 管理部長 倉内 康治

総務省国際戦略局審議官 二宮 清治

外務省総合外交政策局宇宙・サイバー政策室長 山口 勇

文部科学省大臣官房審議官 岡村 直子

経済産業省製造産業局宇宙産業室長 浅井 洋介

防衛省防衛政策局次長 石川 武

4. 議事要旨

(1) 「令和2年度宇宙関係予算の概算要求の状況」について事務局及び関係府省より説明を行った。委員からは以下の様な意見があった。(以下、○委員からの意見 ●事務局及び関係府省からの回答)

○準天頂衛星システムについて、7機体制の整備とともに、ハード面のみならず利用開拓や将来システムの研究などソフト面での対応を強化していく必要がある。

○量子暗号技術について、各省の連携状況はどうなっているのか。

●政府全体で量子技術の包括的な戦略を検討している。

○衛星通信について、衛星通信は衛星コンステレーションやデジタル化などの変革期にあり、日本の将来ビジョンを継続して検討する仕組みが必要である。

○OSSA（宇宙状況監視）について、文科省と防衛省の役割の違いは。

●文部科学省は研究開発中心、防衛省とも連携している。

○宇宙産業技術情報基盤整備事業について、実証機会の提供だけでなく先進機器の研究開発の支援も

重要である。

●当事業ではNEDOからの研究開発支援も実施、中小企業庁も連携して研究開発を支援。

○宇宙の安定的利用を確保するための調査研究の実施体制は。

●航空自衛隊で担当するが、JAXAや文科省また外部専門家の知見も活用して進めていく。

○スペースベースドSSAについて、小さな衛星を活用し、短期間で実証をしながら進めていくことも重要である。

○各省共通で取り組んでいる研究開発や宇宙状況の情報共有について、どのように各省連携し、政府として効果的に進めていくかが課題である。

(2)「国際協力による月探査計画への日本の参画」について、事務局より説明を行った。委員からは以下の様な意見があった。本議題は、引き続き、宇宙政策委員会で検討していくこととした。(以下、○委員からの意見)

○月探査を行うに当たっての科学的意義をさらに検討する必要がある。特に月の水は、科学的解明より資源利用が主要テーマ。実際、水が月のどこにどれだけあってコストが見合うのかが重要である。

○月探査計画への参画を通じて、日本の宇宙先進国としてのプレゼンスをしっかりと世界に示すことが重要である。

○米国は火星を視野に入れている。日本も月の先に何を指すのか検討しつつ、月で何をやるのかを考える必要がある。

○日本が後れをとらないためにも、参画の意思については早急に表明すべき。

以上